

公立高校のあり方に関するタウンミーティングでの主な意見

○牟岐会場（9月25日）

テーマ	カテゴリー	主な意見及び特徴的な意見
将来の高校の姿	地域との連携	・地域交流を積極的に行い、地域の特色を活かした教育。
	学びの内容	・生徒が夢や目標を見つけられる普通科以外（社会で必要なこと、体験）の学び。 ・質の高い教育を提供。
	環境	・文武両道で部活動に熱心に打ち込める環境。 ・防災拠点としての使命を果たせる学校。
	教育内容の充実	・地域特有の文化・伝統を学べる新たな学科の設置・カリキュラムの導入。 ・社会で必要なことを学ぶ体験型の学びの充実。 ・世界との繋がりを重視し、郡外・県外・海外から生徒が集まる特色を持つ。 ・地域の特色を活かした部活動の創設。
特色化・魅力化	交流・国際化	・留学プログラムの継続と充実による他校、他県、海外との交流の促進。 ・地域の方々からの温かい支援を受けられる学校。
	施設・環境	・校舎や設備の充実。地域の食材を活用した学食の充実。 ・部活動の指導者の確保やグラウンドなどの環境整備と部活動の魅力化。
	受け入れ体制・寮	・通学問題の解消にも繋がる寮の魅力化。 ・津波に強く安全でおしゃれな校舎の整備。 ・不登校の生徒や障がいのある生徒への合理的配慮など、多様な生徒を受け入れる体制の整備。
規模・配置	規模・配置	・今後の人口減少の中でも、1学年100人前後の一定の規模維持が必要。 ・県南にも複数の選択肢を提供できるような配置。
	地域での存続	・地域に高校を残すことを強く希望し、海部郡に1校はあって欲しい。 ・交通機関の移動手段の利便性の向上。

○三好会場（10月2日）

テーマ	カテゴリー	主な意見及び特徴的な意見
将来の高校の姿	地域との連携	・地域と連携し、地域と近い高校。地元を支える人材を育てる高校。 ・ローカリズムに縛られない子どもの特色を生かせる高校。 ・教育を核とした町づくり。
	教育内容と進路	・生徒の選択肢を確保し、様々なカリキュラムを提供する学校。 ・大学受験に向けてしっかり対策してくれる高校。
	校風と環境	・勉強・部活・学校行事など、何事にも頑張る雰囲気のある環境。
特色化・魅力化	地域連携と国際化	・地域とつながる外部（市、起業人、国際人）との交流。・国際科のある高校。 ・外国人（戦争孤児や避難民の子ども）の受入れ。ホストファミリーを作る。
	キャリア教育	・高校の専門性を強め、深い学びができる学校。・創業スキルが学べる学校。 ・いろいろな職業や立場の人の話が聞けたり、対話できたりする学校。
	地域固有の特色	・三好市に誇りを持てる、郷土愛を育む教育。 ・日本でその学校にしかないコース（酒、妖怪、ジオ、アニメなど）が学べる学校。
規模・配置	規模・配置	・1学年90～100人程度の一定の規模維持が必要。 ・1クラス10～20の少人数教育を希望。 ・旧三好郡内に1校は高校が必要。統合を進め、各市に1校で十分。
	統合の範囲	・生徒数のさらなる減少に備え、池田本校、辻校、三好校、つるぎ高校商業科までが統合の視野に入る。
その他	学校運営	・生徒が主体の学校（自由だけでなく責任を学ぶ）。 ・失敗を評価してくれる学校。・県内の高校同士で簡単に転校できる。

○美馬会場（１０月６日）

テーマ	カテゴリー	主な意見及び特徴的な意見
将来の高校の姿	教育内容と進路	・就職や進学につながる体験や学びを充実させ、多様な進路実現を図ることができる高校。
	教育方針と人材育成	・専門性の高いコースを選択できる高校。・生徒主体の活動を重視する学校。 ・高校は大学のように専門分野に特化するのではなく、幅広く必要な資質・能力の育成に注力すべき。
	地域連携	・地元地域や小中学校と繋がれるような学校。・地域に愛着を持ってもらえる教育内容。 ・地元の良さを発信できる人材を育てる学校。
特色化・魅力化	学科・コースの多様化	・職業科・ゲーム科・マンガ科・eスポーツ科など、特徴的な学科を新設する。 ・複数の学科（普通科、工業科など）を持つ高校。
	進路・キャリア	・地元の高校でも将来の夢を諦めなくていいような学校。
	地域連携と教育内容	・地元の特色や産業を知ること、地域愛を育成するような学校。 ・思い切った特色化を図るため、「捨てること」も必要。 ・自然や農業など、都会にはないことで勝負する。
	施設・環境整備	・他県や県東部に負けない校舎等や、（寮の代わりに）空き家を活用した住環境の整備。 ・地域の方を雇用し、特産品を生かした学食の運営。
規模・配置	規模の必要性	・様々な選択肢を与えるためにも、１学年 270 人程度の大規模高校が必要。 ・小・中・高連携した学校の設置（美馬・三好地区を一つに考えて）。 ・高校を統合し、カレッジタウンのようにハイスクールタウンをつくる。
	小規模校の維持	・少人数でも学校を維持してほしい。・一人一人に手厚い指導ができる小規模校も必要。
	地域ごとの配置	・市町が活性化するためにも、郡市に一つは高校が必要（高校がなくなると地域は衰退する）。
その他	施設等への要望	・築年数が 50 年以上の古い学校ばかりで、新校舎を建てるべきだった(取り組むのが 20 年遅い)。
	通学への配慮	・通学のための交通手段の確保、経済格差が生じないようにしてもらいたい。

○吉野川会場（１０月８日）

テーマ	カテゴリー	主な意見及び特徴的な意見
将来の高校の姿	教育環境	・自己調整力を培うため、カリキュラムに余白を作る。 ・自分で試行錯誤したり、マイプロジェクトに取り組んだりする機会を提供。 ・しがらみのない Freedom を重視し、起業家の育成を目指す。
	人材育成	・地域の魅力を維持できるような人材の育成、地域産業に貢献できる学校が求められる。 ・一次産業が強い地元で働きたいと思える郷土愛を持つ生徒を育成すること。 ・世界や日本全国で活躍できる人材の育成（ハイタレント教育の推進）も重要。
	個に応じた学びの実現	・個に応じた多様な学びの選択肢としての学校（通信制を含む）が必要。 ・学びの多様化への対応（県立の広域通信制、エンカレッジスクール）。 ・生きる力や人権を大切にすることが学べ、生徒が主体である学校が望ましい。
	特色ある専門性	・スポーツや勉強など、ここに進学するという特色を持った専門性のある学校。
特色化・魅力化	地域・産業連携	・大学・企業と連携したカリキュラムをもち、企業や地域産業の方の授業を受けるなど、地域の人材を活用した教育を行うべき。 ・地域との連携が円滑になるよう、コーディネーター人材の確保・配置が望ましい。
	多様な教育内容	・デジタル、アート（これまでのものと異なるもの）、外国語を重視する。
	ユニークな専門分野	・徳島の特色が学べる、専門的な学科（観光や阿波踊り）を持つ高校。 ・実業系学科の充実や英語教育の充実（バカロレア校）も図るべき。
規模・配置	規模の多様性と地域均衡の維持	・交通の便もあわせて配置を考える必要があり、一地域（徳島市内）に集約する必要はない。 ・各地域に最低限の規模の高校が必要であり、各市町に 1 校の配置が理想。
	望ましい規模	・1 学年 150 人、20 校程度。あるいは 1 学年 4 学級以上、全体で 500 人規模。
その他	学校運営と地域社会との連携	・高校の再編・統合に関して、行政も参画し、町づくりのビジョンと関連付けて検討すべき。 ・小・中・高一貫の学校や、小規模校同士でのリソース共有を進めるべき。

